

第42回 一橋植樹会 総会

平成27年5月23日(土) 11時

於 一橋大学佐野書院



枝垂れ桜と図書館

第42回 一橋植樹会 総会議案

第1号議案 平成26年度事業報告並びに
決算報告承認の件

第2号議案 役員改選承認の件

第3号議案 平成27年度事業計画並びに
予算承認の件

第1号議案 平成26年度事業報告

植樹会の基本活動であるキャバスの緑の保全と環境整備のための作業は、好天候に恵まれ年度計画通り全スケジュールを消化しました。作業の内容は年々進化しており近年刈り払い機など機械の使用も増加していますが、幸いにして無事故を続けています。

武蔵野の雑木林復元に向けての植樹作業、記念植樹木の剪定等従来型よりも作業が多岐に亘ってきています。又、会員増加により事務量が増加し経費の上昇もあり、その対策として事務効率化やHPの刷新等に着手し進行中です。三位一体の一翼を担う学生の重要度が量・質共に増加してきているのは喜ばしい事です。

寄付講義も3回目を終えましたが、屋外活動を増やすことにより、学生の評価も高くなり文理共鳴の実を上げていると思います。

上記のような成果を上げることが出来ましたが、これも偏に卒業生会員、大学の関係者、学生諸君のご協力によるものと深く感謝申し上げる次第です。

1. ボランティア作業

(1) 活動実績

予定通りに年間13回の定例作業（KODAIRA祭、一橋祭関係者に協力する特別清掃作業を含む）を実施することができました。参加者は延べ1,312人と前年比12%ほど増加し、学生約170人が参加したラグビー場整備を加えると1,400人を超える人達が母校の緑を守るために汗を流したことになります。作業の内容としては、前年3月度のイノベーション・センター玄関周辺の作業に引き続いて、東1号館南、弓道場周辺の作業サポート等植樹会として初めて作業に着手したこと並びに東2号館や学生会館のカナメ、ひょうたん池周辺のツツジ、矢野二郎像周辺のドウダンツツジ、職員集会所前庭植栽等、植木の剪定を行い、単に除草やごみ掃除で終わらずに修景に寄与する行動ができたことが特筆されます。

(2) 植樹作業

昨年実施した東キャンパス東南隅、マーキュリータワー東側一帯で、昨年植えたコナラの植え替えに1本、新たにイロハモミジ3本、シラカシ2本、ヤマザクラ1本の計7本を植樹しました。新生植樹会の活動10年を経て緑地基本計画のレビューを行う過程で多くの木が弱り、次世代の緑育成に着手すべき時期が来っていると危機感を新たにしました。これがきっかけで昨年初めて専門業者の手を借りず

独力で13本もの植樹作業を実施しました。繁茂する葛の除伐作業は困難を極めました。建設工事の残骸の埋まる場所での穴掘り作業と自力で行うことの大変さを噛みしめながらの初体験でした。今年はその残りの作業を行いました。尚、毎年卒業生を支援して実施している卒業記念植樹は1月23日に定例作業に先立ち、沼上副学長ご出席の下で行いました。前年と同じ第二講義棟の南側にカンヒザクラが植えられました。

(3) 休日作業

10月18日(土)に第5回目となる休日作業を実施しました。前項の植樹作業と、東1号館南の整備作業が主でしたが、参加者数は教職員、学生、卒業生総勢158人、多くの会員に作業の実態を体験して貰う目標が達成できました。

(4) 国立キャンパス緑地基本計画レビュー

平成24年度(平成24年12月、25年1月、3月)にて実施した検証作業の内容は昨年6月に大学に口頭にて報告いたしました。同基本計画に代わる新しい管理計画としてこれを具現化する為、補足作業として昨年5月、7月、11月に大径木の測定調査を行い、更に今年2月にも樹種の再チェック等を実施しました。今後、これに基づき大学とともに年間計画は勿論のこと、中・長期計画に大いに活用されるよう期待します。

(5) 作業後交流会

作業後の交流会は、実地作業と合わせて植樹会活動の両輪を構成する要素として重要視してきました。学生がボランティア作業に参加し、その楽しみを体験した後に卒業生との交流を通じ、一体感を醸成する貴重な場として大いに役立っています。企画も季節の特徴を生かし、質素ながら参加者に楽しんで貰えるよう努めました。この体験をした彼等が40数年後にキャンパスの緑を守るべく帰って来てくれることを信じて疑いません。

2. 学生の主体的活動の推進

学生理事は限られた時間の制約の中で役割分担をしながら、会の運営・活動に協力しています。中でも選ばれた4人の学生理事は幹事として毎月の幹事会にも出席し、学生の立場から個々の活動について都度提言をしてくれています。

(1) 植樹会のアピールと学生の作業参加の促進

周辺学生に個別に参加を呼びかけると同時に、定例作業に参加した学生のリピーター化に努めています。近年、KODAIRA祭実行委員会、一橋祭運営委員会及び体育会クラブとの絆が強まり、学生の作業参加人数の増加につながっています。

新入生歓迎イベントでは引き続き植樹会入会を促す働き掛けを行いました。残念ながら学生会員数増という実績には直結していませんが、多くが入学後 KODAIRA 祭実行委員としてボランティア作業に加わってくれています。

(2) 学生理事の自主的活動

学生理事の発案でスタートした「国立のお花畑」の運営は後輩に受け継がれキャンパスの一角に彩りを添えています。学生理事は毎年卒業していき世代交代は不可避ですが、後輩に受け継がれ自分達の活動として定着しました。KODAIRA 祭及び一橋祭での子供を対象とした工作「森のクラフト」への積極的参加も含め、学生理事の自主性と積極性が近年目立ち、喜ばしいことです。

3. 組織強化活動

(1) 会員の状況

植樹会活動の支援基盤の安定化を図るために、引き続き新規会員の増加に努めました。最終的に、136人の新規入会に対し、物故者を含む退会77人、見直し退会(3年連続年会費不払い)51人を差引いた結果、実質的な増加は8人でした。

勧誘活動の主な場は、5月のホームカミングデー(以下、HCD)と6回に亘る周年会で、HCDで2人、周年会で65人、合計67人に上る方に新規入会員頂きました。学生理事を含む幹事会メンバー全員が一丸となって活動した成果です。特に学生の勧誘活動への参加が効果を上げています。

(2) 組織強化

近年、一部会員から年会費不払いの傾向が続き「見直し退会」として処理せねばならぬ人数が高止まりし、積極的な入会勧誘の努力と成果にも拘らずその一部を相殺する結果に繋がっていることは真に残念な事です。

会員のご理解とご協力を得るべく一層の努力を傾注して参ります。

又、定例作業参加者の高齢化も会の運営・活動に影響を及ぼしています。新生植樹会を立ち上げ、そしてそれを引き継いだ世代の昭和35、37年卒のOB参加者数が大きく減る中で、昭和41年代前後の年代がリピーターの中核へと移行していますが、これらに続く世代の層が薄いという課題に直面しています。

今後は昭和40年代後半の参加者を積極的に募ることが急務になりました。

4. 広報活動

(1) 如水会々報とホームページ

「植樹会通信」は引き続き如水会々報内に2ページを確

保し植樹会の主な活動、主要トピックスを報告し約3万3千人の如水会員にアピールすると共に、8月を除き毎月更新するホームページでも内容の一層の充実を図りました。

尚、ホームページに付いては更新後速やかに約1,000人のメール・アドレス保有会員に対し一斉配信システムにより更新のご案内を始めました。より多くの会員の閲覧回数の増加を期待します。

(2) 『緑の30景』の抜本的改訂版作成

2年越しの編集作業を終えて予定通り3月中旬に「緑の回廊」として完成しました。

(3) その他の広報活動

引き続き、学生向けに学生班と連携し「一橋新聞」「ゼミエラ」に広告掲載を継続し、活動への参加呼び掛け、活動の様子を広報することに努めると共に、KODAIRA 祭、一橋祭、HCD等のイベント時にも情宣と参加・活動を行いました。

5. 寄付講義「緑の科学」

過去2年間の経験と反省より実験やフィールド・ワークの回数を増やし学生に好評でした。出席回数を求め、試験も厳しく手抜きをしない講座ながら、受講者数は79名と前年の80名と同水準の高いレベルを保ち、学生の間に評価が定着したと思われれます。

6. あり方研究会の成果

新生植樹会に衣替えしてから10年以上経過しました。この間、会の円滑にして効率的な運営を図り、さらに発展させるため弛まざる工夫と努力を重ねて参りました。マナーによる無駄が無いか原点に立って活動のあり方を見直すべく全面的な検討を行いました。

(1) 事務作業費抑制対策

近年、如水会事務局に委嘱する事務作業費用が増加の一途という背景もあり、会の運営に係る事務作業全般の見直しを行いました。事務効率化を進める傍ら幹事自身による事務処理増を志向します。PCのスキル不十分の幹事の多い中で困難を伴うと予期されますが取り進めます。

(2) ホームページの刷新

4月末更新から従来より枠組みを大きく広げた画面に、より大きな文字のフォントを使い読み易くするよう改善しました。

又、スマート・フォンからのアクセスも可能にしました。変更に伴う初期投資には約21万円を要しますが、変更後のランニング・コストは大きく減ると見込まれ、初期投資

分は1年間で回収可能、従い、2年目以降はHP関連経費の節約が期待されます。

(3) 植樹会室（正式には「施設課分室」）の有効活用

植樹会活動の拠点としての植樹会室を従来の打合せの場としてのみならず、(1)にて触れた事情より事務作業の場としても有効活用して参ります。

(4) 幹事会内の内規と各班業務の作業手順書の整備

業務執行上の know-how が属人的に流れてきたことを反省し、非常時に於いても円滑に業務が執行できるよう作

業手順を明文化し、植樹会内PCに保存としました。

7. キャンパス外活動

(1) 11月19日、高尾の森林科学園を福嶋顧問をガイド役に22名が訪れました。

(2) 6月17～18日の二日間、植樹会から参加した12人が福嶋顧問、如水会関事務局長のご指導の下に恒例の箱根坐忘山荘庭園の手入れを実施しました。

(1) 作業参加者の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	対前年比増減
卒業生	521	472	569	97
教職員	73	46	44	(-)2
学生	793	652	699	47
計	1,387	1,170	1,312	142
1回当たりの 平近作業参加者数	107 (13回)	98 (12回)	101 (13回)	3

*平成26年度は天候に恵まれ、休日・定例作業11回（8月を除く）にKODAIRA祭・一橋祭準備の2回を加え合計13回の作業をおこなった。平成24年度はホッケー部員を動員してのホッケー場周辺整備作業を2回実施。

(2) 会員数の推移

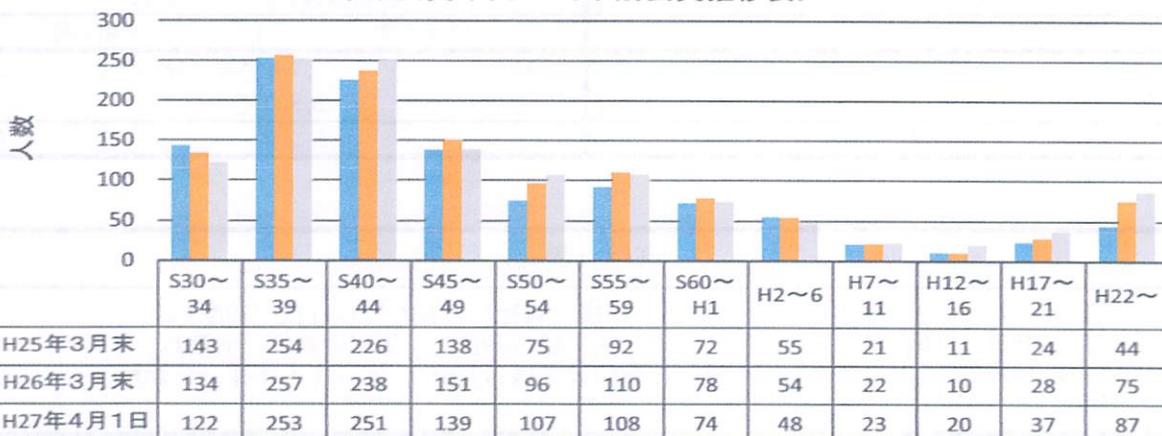
会員種類	平成25年3月末	平成26年3月末	平成27年4月1日	対前年比増減
卒業生	1,242	1,324	1,334	10
教員	47	47	48	1
職員	31	35	36	1
(小計)	1,320	1,406	1,418	12
団体	14	14	14	0
特別	5	2	2	0
学生	33	29	24	(-)5
合計	1,372	1,451	1,458	7
(有料会員)	1,307	1,385	1,427	42
(免除会員)	65	66	31	(-)35

*免除会員⇒卒業後2年未満の卒業生会員+特別会員+学生

*平成27年度4月1日現在、個人会員（卒業生、教員、職員）1,418名の内、終身会員数256名

(3) 卒業会員年次ブロック別会員推移表

<卒業会員年次ブロック別会員推移表>



平成26年度収支決算案 及び 平成27年度予算案 (単位：千円)

科 目	平成25年度	平成26年度	平成26年度	比率(%)	平成27年度
	実績	予算案	決算案		予算案
I. 収入の部					
1. 会費	3,710	4,130	3,800	92	4,069
1) 団体	160	150	153	102	150
2) 個人	3,550	3,980	3,647	92	3,919
2. 如水会支援	600	600	600	100	600
3. 大学後援会	100	150	150	100	150
4. 特定収入	1,013	500	438	88	500
1) 総会会費	265	300	303	101	300
2) 寄付	748	200	134	67	200
3) その他			1		
5. 卒業記念植樹	24	30	18		30
当期収入	5,447	5,410	5,006	93	5,349
前期繰越	2,027	2,210	2,210		2,036
収入合計 (A)	7,474	7,620	7,216	95	7,385
科 目	実績	予算案	決算案	比率(%)	予算案
II. 支出の部					
1. 学園祭賛助・参加費	355	420	388	92	430
2. 組織強化 (学生)	365	350	289	83	370
3. 集会所備品	75	100	117	117	110
4. 組織強化 (一般)	83	150	145	97	230
5. HPメンテナンス	532	660	553	84	470
6. 広報用印刷物	394	420	310	74	340
7. 総会費用	854	750	1,009	135	1,045
8. 植樹費・管理費	180	250	86	34	100
9. 学生植樹支援	246	150	81	54	160
10. 作業道具・備品	95	100	95	95	105
11. 保険料	137	150	86	57	95
12. 会議費	156	160	169	106	185
13. 作業後交流会	863	1,000	956	96	1,020
14. 事務・通信連絡費	447	500	507	101	275
15. 寄附講義運営費	326	300	285	95	320
16. 雑費	156	110	104	95	115
支出合計 (B)	5,264	5,570	5,180	93	5,370
次期繰越	2,210	2,050	2,036	99	2,015

一般会計 貸借対照表		終身会員会計 貸借対照表	
資産の部	負債の部	資産の部	負債の部
普通預金 2,039	普通会費前受金 3	普通預金 1,789	終身会費前受金 5,289
未集金	繰越金 2,036	定期預金 3,500	その他 0
合計 2,039	合計 2,039	合計 5,289	合計 5,289

寄付 (個人)

鈴木哲朗様(25学)、野村佑吾様(31商)、宮川 康様 (34社)、長谷川政行様 (39商)、
 白土種治様 (39商)、藤沢孝之様 (39経)、則松久夫様 (39法)、坂田時恩様 (40商)、
 小塚埜武寿様 (41商)、田村恒俊様 (44経)、秋山武夫様(44法)、涌井庄太郎様 (45商)
 合計134千円

監 査 報 告 書

平成27年4月13日

一橋植樹会会長 八藤南洋殿

私どもは、一橋植樹会の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの事業年度における理事の業務執行状況を監査するため、理事から業務の報告を聞くなど必要と認めた手続きを実施しました。

また、同事業年度の収支及び財産の状況を検討するため、決算報告書、すなわち収支計算書および関連書類について監査を行いました。

監査の結果、理事の業務の執行は適切であり、また、上記決算報告書は収支の状況を正しく表示しております。

一橋植樹会

監事 小池 良 ㊟

監事 土方周明 ㊟

役職	氏名	卒業年・学部	役職	氏名	卒業年・学部
会長	八藤 南洋	(昭40経)	〃	田所 亮子	(昭63経)
顧問	福嶋 司	東京農工大・大学院名誉教授	〃	田山 毅	(平6経)
〃	田崎 宣義	名誉教授(昭51博社)	〃	望月 健一	(平8経)
〃	関 統造	如水会事務局長(昭41社)	理事	蓼沼 宏一	学長(昭57経)☆
副会長	関戸 康男	(昭40社)	〃	辻 琢也	副学長☆
〃	佐藤 征男	(昭42経)	〃	村田 光二	副学長☆
〃	西村 周一	(昭42経)	〃	米山 高生	商学研究科教授(昭57博経)
〃	津田 正道	(昭42商)	〃	林 大樹	社会学研究科教授(昭59博社)
〃	筒井 泉雄	大学教育研究開発センター長	〃	桑原 靖	大学事務局長☆
理事	石原 一子	(昭27学)	〃	山崎 英司	大学財務部長☆
〃	河野 正次	(昭31商)	〃	三好 毅	大学施設課長
〃	辻巻 孝	(昭34商)	〃	加島 輝夫	学生支援課長☆
〃	國持 重明	(昭35経)	〃	山本 哲也	大学総務課長☆
〃	土田 将夫	(昭37商)	〃	香川 祐樹	(商4年)
〃	旗野 友夫	(昭38経)	〃	窪田 莉奈	(商4年)
〃	長谷川 輝夫	(昭39社)	〃	佐藤 翔一	(経4年)
〃	栗田 克彦	(昭41商)	〃	岸 直之	(法4年)
〃	樋口 文夫	(昭41法)	〃	増田 実佳	(法4年)
〃	川村 忠太郎	(昭42法)	〃	城 和世人	(社4年)
〃	高場 恭幸	(昭43経)	〃	笹口 健太	(社4年)☆
〃	五島 康晴	(昭44経)	〃	高輪 一輝	(社4年)
〃	保坂 証司	(昭44社)	〃	長野 太祐	(社4年)
〃	高間 伯夫	(昭45商)☆	〃	中村 嘉希	(社4年)
〃	樋浦 憲次	(昭45経)	〃	笠原 俊宏	(商3年)☆
〃	川崎 勝晤	(昭46経)	〃	鈴木 捺稀	(商3年)☆
〃	金子 彰	(昭46法)	〃	藪本 文美香	(商3年)☆
〃	岩城 悦子	(昭47商)	〃	堀池 尚希	(経3年)☆
〃	若月 一郎	(昭47商)	〃	村本 昌樹	(経3年)☆
〃	林 利治	(昭47経)☆	〃	佐々木 龍也	(法3年)☆
〃	高橋 治夫	(昭48法)	〃	中村 朱里	(法3年)☆
〃	河村 進	(昭49経)	〃	岡部 光	(社3年)☆
〃	高橋 忠明	(昭49商)	〃	加古 息吹	(社3年)☆
〃	高橋 正明	(昭50法)			
〃	秦 哲也	(昭50社)			
〃	善宝 俊文	(昭53法)☆	監事	小池 良	(昭52商)
〃	奥村 太久実	(昭61経)	〃	土方 周明	(昭52商)
退任役員		湯川敏雄(昭42社)	落合一泰副学長		岡田優花(法4年)
		志田哲朗(昭39経)	林 一義事務局長		茅野隆太(法4年)
		夏目恭宏(昭41商)	平沼吉明学生支援課長		三輪健太郎(法4年)
		田中襄一(昭45商)	小林美保総務課長		川瀬紗依(社4年)
		横塚裕志(昭48商)	齊藤万純(経4年)		久野真由美(社4年)
		山内進学長(昭52博法)	長嶺圭佑(経4年)		高野瑞生(社4年)
		小川英治副学長(昭61博商)	大木駿(法4年)		

第3号議案 平成27年度事業計画

基本方針

1. 完成した「緑地基本計画レビュー」の結果に対し、大学関係者に深く理解して貰うように努めながら緑の保全と環境整備のための作業を進めます。レビューで提案している新植樹計画にある雑木林復元のための植樹活動も継続して参ります。
2. 大学との意思疎通の円滑化を通じて、植樹会作業が大学の定める美化環境整備年間計画を補完・支援する形になるよう実行し、年間を通じてキャンパスの“Clean & Green”が保てるように努めます。
3. 新生植樹会発足時の主力会員が高齢となり減少が続いています。これに代わる若手の入会促進と作業参加者の増加が喫緊の課題です。HPや印刷物による情宣活動だけでなく、幹事会メンバーの地道な口コミ活動が必要です。植樹会一丸となって取り組みます。
4. 学生団体との共同作業を拡大し、学生参加を促進します。又、寄付講義が緑を「見て、触って、学ぶ」機会として提供するだけでなく、緑の環境を通じて感受性豊かな人材の育成に繋がればと考えています。

具体的活動計画

1. ボランティア作業

2004年に大学が決定した「緑地基本計画」に基づき12年間に亘り行なってきた植樹会活動の成果である人的・物的遺産を受け継ぎ、次世代へ継承することを念頭において今後の作業体制を整備し、作業活動を継続して行きます。

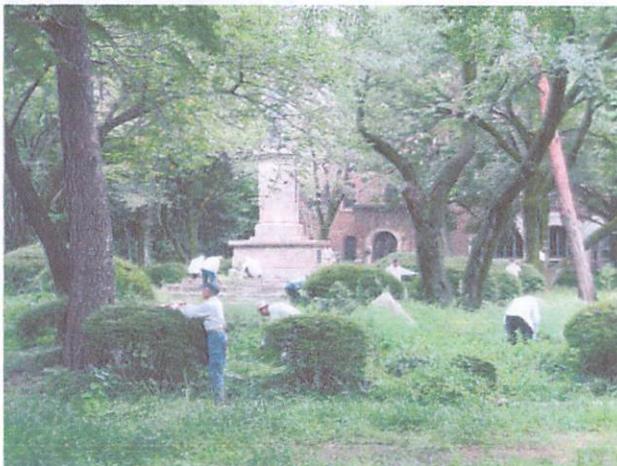
- (1) 定例の月例作業と交流会は例年通り13回を予定します。その内、6月20日(土)、10月17日(土)の2回は、大学の協



職員集会所一定例作業開始前の説明

力を得て現役卒業生会員の参加の機会を増やす為の休日作業として実施する予定です。

- (2) 学園祭のみならず体育会部活施設などの整備作業へ支援を継続・拡大します。
- (3) 緑地基本計画のレビューに基づき新たな植樹計画に取組みます。学生の卒業記念植樹は今年も支援して参ります。
- (4) 大学とのコミュニケーションを密にして、まずは大学の年間保全計画を理解した上で植樹会のボランティア作業をそれに添って補完・支援する形になるよう計画を立案し実行します。
- (5) 当面の課題として“松食い虫蔓延の防除”を関係各方面へ情宣し、難しい課題ですが歯止めをかけるべく働きかけます。
- (6) 作業の安全を第一とするのは当然ですが、用具の充実と整備に留意し、機械力を駆使して作業効率の向上に努めます。



作業—矢野二郎像一帯

2. 学生の主体的活動の推進

- (1) 一昨年、正式な学生団体として認められた「学生植樹会」のあり方を徐々にでも形づくる一年にしたいと思えます。具体的に期待される役割の一つとして「学生理事OB・OGの組織化」が挙げられます。

学生理事という役職は平成17年卒業生(2名)に始まり今日に至る迄毎年新しい学生理事の誕生により縦の糸が出来てきました。植樹会の学生理事には卒業後も、「植樹会は心の故郷」としての想いを共有する集団となって欲しい、「未来の植樹会幹事団」に進化していくことを願っています。是非ともこの貴重な人脈の組織化の一助となって貰いたいと期待します。

- (2) 学生の作業参加への働きかけと学生会員の増強

従来通り、KODAIRA 祭実行委員会、一橋祭運営委員会、

クラブ等との連携を保ちながら実効を上げるべく努めます。

(3) 新たな魅力づくり

引き続き、「国立のお花畑」の維持、KODAIRA 祭及び一橋祭への積極的参加を核に新たな魅力づくりを企画、活動します。OB 幹事は学生の主体的活動が円滑に進むよう支援します。



平成26年度卒業生による記念植樹

3. 組織強化活動

財政基盤の安定化の為には寄付金のみならず、会員数増による年会費収入増を図ることが必要不可欠で、今年も入学20周年以降の周年会を対象に新規会員勧誘に動きます。

幸いにして、大学のご理解とご協力により、今年度から休日作業の回数を2回に増やせることになりました。未だ、現役で平日の定例作業に関心はあっても参加困難の人達に是非、作業の楽しみと意義を感じ取って欲しいとの狙いから企画しました。

この機会も有効に活かして植樹会活動基盤の強化につなげたいと考えます。

会員の皆様にも周囲の友人、知人に植樹会の紹介をお願い



休日作業の植樹作業

いできれば助かります。

昨年度の報告で触れました通り、定例作業に参加するリーダーの高齢化現象に対処すべく、昭和40年代後半卒業生を中心に作業への勧誘を積極的に開始、この年齢層を厚くするべく努めます。此方も会員の皆様のお口添えがあれば助かります。

4. 広報活動

(1) 如水会々報・ホームページ

引き続き内容の充実、植樹会活動・キャンパスの状況を生き生きとお伝えするべく努めます。

(2) 「植樹会の歩み」(改訂版)作成

在庫切れに伴い、改訂版の作成に着手します。

(3) その他の広報活動

学生向けの広報は引き続き学生班と連携し、「一橋新聞」「ゼミエラ」等への広告掲載を継続し、活動への参加呼び掛けます。



寄付講義一班分けしてのキャンパス・ツアー

5. 寄付講義「緑の科学」の継続

過去3年間の経験の積み重ねで講座内容は略完成に近づいたと判断します。4人の講師と共に魅力的な講座の継続に邁進します。

6. 「あり方研究会」の継続

昨年度は有効な施策を幾つか生み出し、改善への一助としました。今年度も、必要に応じてこの非定常的組織を活用して実効を上げて行きたいと思います。

7. キャンパス外活動

引き続き、首都圏近郊の環境保全地域視察や、外部奉仕を実施します。

平成 27 年度一橋植樹会幹事会組織 (案)

1. 企画・総務班

幹事 正) 西村理事、副) 樋浦理事、
高橋理事

担当：事業計画立案、予算決算、幹事会、総会、大学・如水会折衝窓口、

2. 組織・統括班

幹事 正) 津田理事、副) 河村理事

担当：組織強化、卒業生・教職員・団体・特別会員（除学生）の増強、
会費の管理、会員名簿の作成と改訂

3. 学生班

幹事 正) 保坂理事、副) 秦理事、
長谷川理事

担当：学生会員の勧誘、作業参加促進、交流会活性化、 KODAIRA 祭・
一橋祭への参加、学生会員の名簿管理、学生植樹会の支援。

4. 広報班

幹事 正) 佐藤理事、副) 高場理事、
若月理事

担当：HP の更新および案内、如水会々報への投稿、小冊子・チラシの
作製、学内誌との連携。

5. 作業班

幹事 正) 金子理事、副) 五島理事
関戸理事、樋口理事、高間理事、川崎理事、林理事、善宝理事、

担当：定例作業の企画、案内と実施、用具備品の購入・管理、安全対策、
交流会の準備と実行、植樹計画の立案、保険（傷害、自賠責）に関する
事項。

以上

